

## 山梨県におけるクロゲンゴロウの記録

富樫和孝<sup>1)</sup>・岩田泰幸<sup>2)</sup>・高野雄一<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> 〒 408-0024 北杜市長坂町富岡 2812 (e-mail: info@oomurasaki.net)

<sup>2)</sup> 〒 160-0022 新宿区新宿 2-1-8 公益財団法人文化財虫害研究所 (e-mail: laccotrephes\_1874@yahoo.co.jp)

<sup>3)</sup> 〒 354-0026 富士見市鶴瀬西 3-3-18

### Record of *Cybister brevis* Aubé, 1838 (Coleoptera, Dytiscidae) from Yamanashi Prefecture, Honshu, Japan

Kazutaka TOGASHI, Yasuyuki IWATA and Yuuichi TAKANO

#### はじめに

クロゲンゴロウ *Cybister brevis* Aubé は、環境省レッドリスト 2017 において準絶滅危惧種として選定されている大型 (体長 20 ~ 25 mm) のゲンゴロウ科の甲虫である (西原ほか, 2015)。本種は国内に分布するゲンゴロウ属の中では比較的個体数の多い種とされているが、その産地はやや局地的な傾向があるとされる (森・北山, 2002; 西原ほか, 2015)。また近年、南日本の太平洋側では各県で産地が数ヶ所まで激減しており (西原ほか, 2015)、南関東でも絶滅かそれに近い状態の地域が多くなっているようである (例えば、荊部, 2006; 埼玉県, 2008; 東京都, 2013)。



図1. 山梨県産クロゲンゴロウ。



図2. 採集環境: 北杜市ため池A。

山梨県においては、本種はもともと少ない種と思われる。森・北山 (2002) の記録・分布表には記載がなく、水野・細田 (2010) でも記録されてはいなかった。筆者らの知る限りでは、杉村 (2014) において同県北部で採集されたものが、公表されている県内産の唯一の記録と思われる。

筆者らは、最近、本種を山梨県内の数ヶ所を得ているため、分布記録としてデータを示すとともに採集時の状況を記した。また、山梨県および近隣各県の既知記録を比較し、本種の分布について小考察を付記した。

#### 方法

採集は D 型フレームネットにより掬い取りを行った。

#### 山梨県下の記録

##### クロゲンゴロウ *Cybister brevis* Aubé (図1)

1ex., 北杜市北部 (ため池 A, 図 2), 5. XI. 2016, 高野雄一採集, 岩田泰幸保管; 1♂1♀, 北杜市北部 (ため池 B, 図 3), 26. IX. 2016, 富樫和孝採集, 北杜市オオムラサキセンター収蔵予定; 1♀, 北杜市北部 (水田集水橋 C), 22. III. 2016, 細田楓採集, 北杜市オオムラサキセンター収蔵予定。

なお、本種を含むゲンゴロウ科の大型種の詳細な産地を公表することは採集圧を高める危険性が



図3. 採集環境: 北杜市ため池B。

表1. 山梨県および近隣各県のクロゲンゴロウの記録.

県名	記録数	分布傾向	県レッド(※)	文献
山梨	極めて少ない	局地的	掲載なし	杉浦, 2014
東京	確実な記録は少ない	かつては広く分布	絶滅危惧IA類	東京都本土昆虫目録作成プロジェクト, 2002; 東京都, 2013; 初宿編, 2011
神奈川	確実な記録は少ない	かつては広く分布	絶滅危惧IA類	平野, 2004; 苅部, 2006
埼玉	極めて少ない	県西部に限定	絶滅危惧IA類	吉越他, 1998; 埼玉県, 2008
千葉	比較的多い	房総南部に多いが減少傾向	掲載なし	鈴木智史氏、鈴木勝氏私信; 山崎, 1994; 神奈川県立生命の星・地球博物館, 1995; 西田, 1999; 鈴木, 2007; 初宿編, 2011
栃木	比較的多い	広く分布(県北・東部に多い)	掲載なし	佐藤・大桃, 2003; 岩田, 2006
茨城	比較的多い	広く分布(県北部に多い)	絶滅危惧II類	高野・大桃, 2000; 茨城県, 2016
群馬	少ない	広く分布するが、数は少ない	絶滅危惧I類	茶珍氏私信; 群馬県, 2012
長野	少ない	比較的広く分布	準絶滅危惧	谷澤, 2006; 初宿編, 2011; 長野県, 2015
静岡	少ない	広く分布するが、局地的	情報不足	松井・松井, 1996; 油井, 1995, 1997; 北野, 2000

※各県版レッドデータブックにおける掲載の有無, あるいはランクを示す.

あることから, 本報告では上記のように地名の詳細を伏せた. なお, 標本に付したラベルには可能な限り詳細な地名を明記してある.

### 採集時の状況と環境

ため池 A (図 2) は, 年間を通じて水が枯れないため池であり, 岸際の抽水植物の根もとから得られた. この個体は越冬状態に入りつつあり, 採集時の動きは緩慢であった.

ため池 B (図 3) は, ほぼ全面がコンクリート護岸されており, 植生は乏しい. 池は水深が深く調査はしづかった. 採集個体は底泥中より得られた.

水田集水枡 C は, コンクリート製であり, 年間を通じて河川の水や湧水が溜まっている. 採集個体は, 枡内に溜まった枯死植物中より得られた.

各個体が得られた地点で本種が発生できる可能性があるのは A 池のみであり, B 池と集水枡 C では他所から飛翔により移動してきたものが採集されたものと推測される.

なお, A 池においては筆者らが年間を通じて調査を行っているが, 今までにクロゲンゴロウの幼虫は採集されていない. A 池では同属のゲンゴロウ *Cybister chinensis* Motschulsky の幼虫が多数確認されており, クロゲンゴロウと競合関係にある可能性もある.

### 分布

表 1 に, 山梨県および近隣各県のクロゲンゴロウの分布状況を示す. 記録は網羅的に集積したものではないが, 分る範囲でそれぞれの分布傾向を示した.

分布域については, 今回記録を調べた範囲に限定すれば, 大きな空白域は見られなかったが, 埼玉の県央・東部, 静岡の県央部は分布の希薄な地

域の可能性がある.

個体密度については記録数が少なく, かつ, 現在ではかなり減少している地域(東京, 神奈川, 埼玉)では, かつての状況を推測することが困難である. おおまかな傾向としては, 関東地方(特に平野部から低山帯)より山梨県を含む東海・甲信地方の方が本種の生息密度は元来薄いのではないかと思われる.

山梨県については, これまでの状況から推測すると個体数は多くないと考えられるが, 広く分布している可能性はある. 同県では同所的に確認されることが多い同属のゲンゴロウとの関係性を見ながら, 今後は県北部以外でも得られるかどうかや, 採集される機会が増えるかどうかなど, 動向に着目していくことが重要と考えられる.

### 謝辞

本稿を執筆するに際して以下の各氏にご助言をいただいた: 跡部治賢, 茶珍護, 日暮卓志, 細田楓, 岩田朋文, 金澤賢治, 北野忠, 小粥隆弘, 佐野真吾, 鈴木勝, 鈴木智史(以上, アルファベット順). ここに記して御礼申し上げる.

### 引用文献

- 岩田泰幸, 2006. 2004, 2005 年・栃木県における水棲甲虫調査の報告. インセクト, 57 (1): 13-20.
- 神奈川県立生命の星・地球博物館, 1995. クロゲンゴロウ. P. 22, 神奈川県立生命の星・地球博物館編, 阿部光典ゲンゴロウ類コレクション標本目録. 神奈川県立博物館自然部門資料目録, (8)
- 苅部治紀, 2006. 水生甲虫. 385-392 pp. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006. 神奈川県立生命の星・地球博物館.
- 北野 忠・石田和男, 2000. 遠州地方で確認された水生鞘翅目. 遠州の自然 (23): 9-14.
- 北野 忠, 2000. 静岡県で採集された水生鞘翅目. 神奈川県自然保全研究会報告書, (15): 17-24.
- 平野幸彦, 2004. ゲンゴロウ科, pp. 409-412, 神奈川県昆虫談話会編, 神奈川県昆虫誌 II.

- 茨城県, 2016. 茨城県版レッドデータブック<動物編> 2016年改訂版 (<http://www.pref.ibaraki.jp/seikatsukankyo/kansei/chojyuhogo/documents/rdbkakuron6-4.pdf>) (2017年8月14日参照).
- 松井正通・松井正文, 1996. 静岡県からのゲンゴロウ類2種の記録. 月刊むし, (307): 38.
- 水野弘造・細田倅市, 2010. 葦崎市(山梨県)の甲虫. 206 pp., 日本甲虫学会.
- 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版 図説日本のゲンゴロウ. 232 pp., 文一総合出版.
- 長野県, 2015. 長野県版レッドリスト(動物編) 2015 (<http://www.pref.nagano.lg.jp/shizenhogo/kurashi/shizen/hogo/hogo/redrist-doubutsu.html>) (2017年8月14日参照). 長野県.
- 西田時弘, 1999. 千葉県内における大型ゲンゴロウ類等の記録. 房総の昆虫, (22): 65-71.
- 西原昇吾・菊部治紀・北野 忠・永幡嘉之, 2015. クロゲンゴロウ. P. 396, 環境省編, レッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-5, 昆虫類, ぎょうせい.
- 埼玉県, 2008. 埼玉県レッドデータブック2008 動物編. 354 pp., 埼玉県.
- 佐藤光一・大桃定洋, 2003. ゲンゴロウ科, pp. 57-66, 栃木県編, とちぎの昆虫II.
- 初宿成彦編, 2011. ゲンゴロウ上科, pp. 3-28, 初宿成彦編, 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録(1). 大阪市立自然史博物館所蔵資料目録(43).
- 杉村健一, 2014. 山梨県でクロゲンゴロウを採集. 山梨の昆虫, (55): 13-14.
- 鈴木智史, 2007. クロゲンゴロウ2箇所における記録. 房総の昆虫(39): 69.
- 高野 勉・大桃定洋, 2000. 茨城県産甲虫リスト. るりぼし, (23): 1-154.
- 谷澤 崇, 2006. 長野県内におけるクロゲンゴロウおよびマルガタゲンゴロウの採集記録. New Entomologist, 55(3, 4): 75-76.
- 東京都, 2013. レッドデータブック東京. (<http://tokyo-rdb.jp/index.php>) (2017年8月14日参照).
- 東京都本土昆虫目録作成プロジェクト, 2002. 東京昆虫目録(TKM). (<http://tkm.na.coocan.jp/>) (2017年8月14日参照).
- 山崎秀雄, 1999. 千葉県の鞘翅目, pp. 634-718. 千葉県生物学会編, 千葉県動物誌.
- 吉越 肇・小田 博・竹内崇夫・西山 明・小堀文彦・長畑直和・牧林 功, 1998. 埼玉県産の鞘翅目(甲虫類), pp. 93-340, 埼玉昆虫談話会編, 埼玉昆虫誌 III.
- 油井雅樹, 1995. 静岡県におけるゲンゴロウの記録. 月刊むし, (298): 14-15.
- 油井雅樹, 1997. 静岡県西部及び伊豆地方における水生昆虫の記録. 駿河の昆虫, (179): 5021-5023.

(2017年9月8日受領, 2017年12月4日受理)

## 【短報】本州のリウキュウダエンチビドロムシとチビドロムシ

リウキュウダエンチビドロムシ *Pelochares ryukyuensis* M.Satô は南西諸島(宝島・奄美大島・沖縄本島・西表島: Satô, 1966; 与那国島: Yoshitomi, 2007)と台湾(Satô, 1965, 1966)から知られる種であるが, この他に広島県三次市の記録(秋山, 2000)がある. しかし, この記録を引用した中村(2014)が「本種は琉球列島を分布域としているチビドロムシで, この記録は誤同定の可能性もある」と述べているように, 本種が本州に産することは広く認められていないようである.

筆者らは, 広島県東広島市と東京都稲城市で本種を採集するとともに, 秋山(2000)の広島県三次市からの記録個体が正しく本種であることも確認できたので報告する. なお, 本種と後述のチビドロムシ *Limnichus lewisi* Nakane の同定は Nakane (1963), Satô (1966), 上野ほか(1985)によった.

リウキュウダエンチビドロムシ *Pelochares ryukyuensis* M.Satô (図1, 2)

広島県三次市向江田町: 秋山(2000); 4♂10♀, 広島県東広島市西条町下見, 2. VIII. 2017, 前原和雄採集; 1♂, 東京都稲城市大丸(多摩川河川敷), 16. X. 2014, 伊藤淳採集.

三次市の個体は, 秋山(2000)によれば故・中

根猛彦博士の同定によるもので, 比和町立自然科学博物館に所蔵されている. 今回, 秋山美文氏に標本写真をお送りいただき, 本種と確認できた.

東広島市では, 夏季に前原の自宅の灯火に本種が毎夜多数飛来する. その一部を伊藤が同定した. 記録した標本は伊藤が保管している. なお, 前原は平野幸彦氏にも標本をお送りし, 本種であるとの同定結果をいただいている. また, 前原はこれ以後も, 自宅に飛来したものを50頭以上調べているが, すべて本種と同定できるものであった.

稲城市の個体は, 台風による増水の後に洪水堆積物を篩って得たもので, 伊藤が保管している. この個体は伊藤(2015)がチビドロムシ *Limnichus lewisi* Nakane として報告したものであるが, これは誤同定であったので, この場を借りて訂正する.

一方, 今回の調査の過程で, 伊藤の採集品の中に真のチビドロムシも存在することが明らかになったので, 以下に記録しておく.

チビドロムシ *Limnichus lewisi* Nakane (図3, 4)

1♂1♀, 東京都稲城市大丸(多摩川河川敷), 8. X. 2014, 伊藤淳採集.

これらも台風による増水の後に洪水堆積物を篩って得たもので, 伊藤が保管している.

以上の記録から見て, リウキュウダエンチビドロムシは本州の広い範囲に, 更には九州や四国